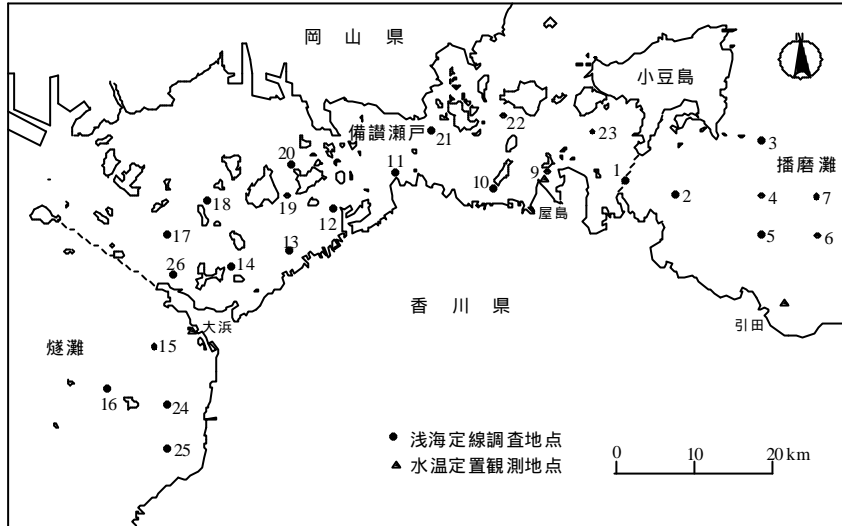


香川県漁海況速報 平成15年8月 (H15- 5号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成15年8月5日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「平年並み」、透明度は「平年並みから著しく高め」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	25.4	23.8	21.9	31.4	31.5	31.9	10.2	4.68	3.05
	平年値	25.5	24.2	22.4	31.4	31.6	31.8	8.3	5.24	3.46
	平年偏差	-0.1	-0.4	-0.5	0.0	0.0	0.1	1.9	-0.56	-0.41
	状況	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	24.1	23.8	23.6	31.4	31.4	31.5	4.4	4.07	3.86
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.5	31.6	31.8	5.2	4.51	4.22
	平年偏差	-1.2	-0.8	-0.7	-0.1	-0.1	-0.3	-0.8	-0.44	-0.36
	状況	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	26.4	23.1	21.4	31.3	32.0	32.5	15.4	4.45	2.39
	平年値	27.4	23.8	21.7	31.6	32.0	32.2	10.5	5.09	3.37
	平年偏差	-1.1	-0.7	-0.3	-0.4	0.0	0.2	4.9	-0.64	-0.98
	状況	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	著しく高め	やや低め	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

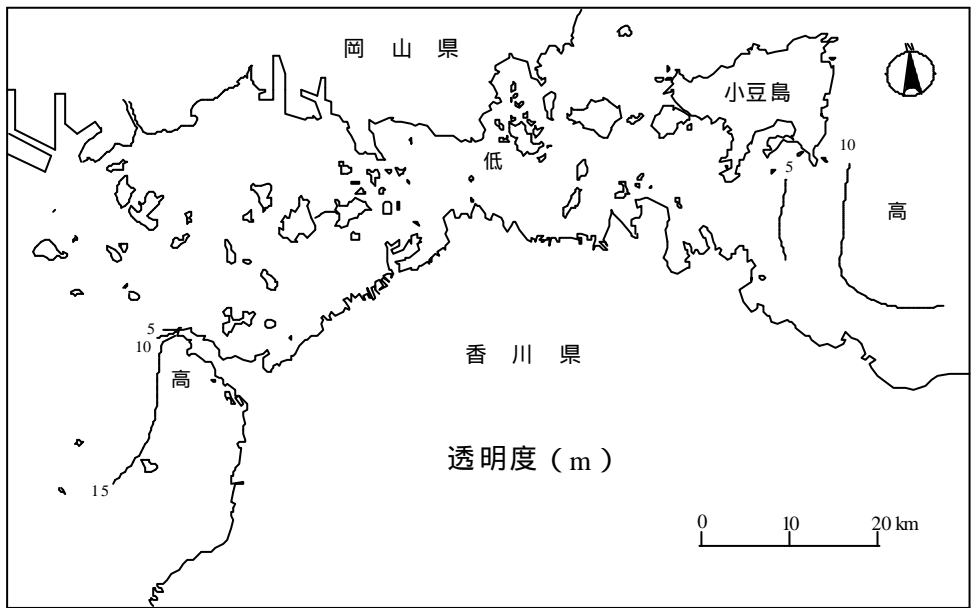
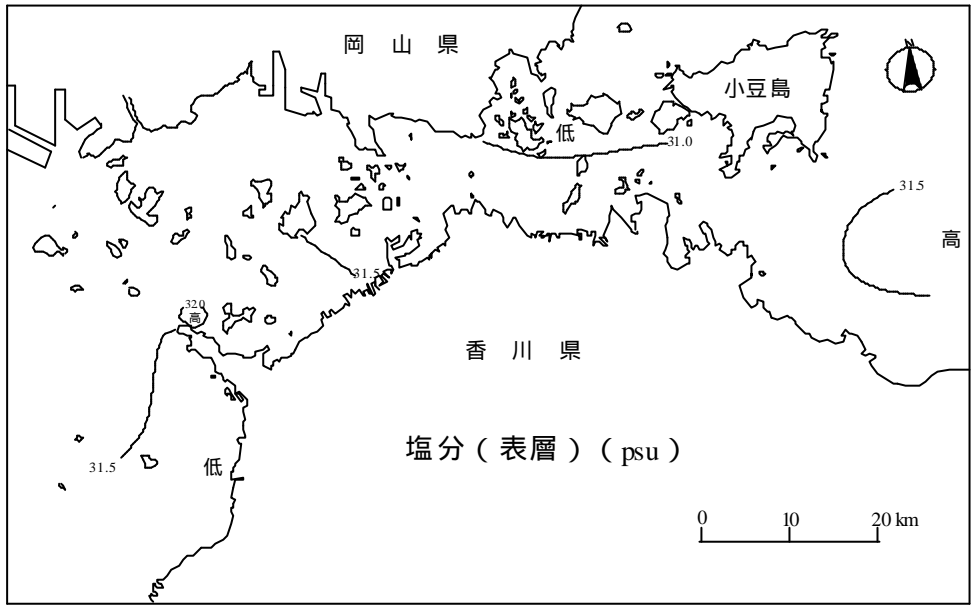
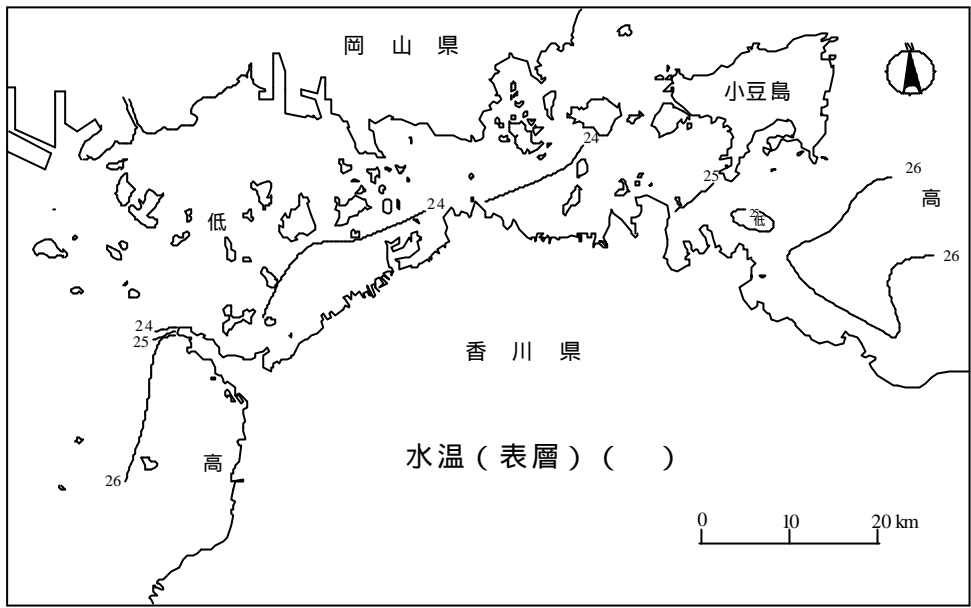
平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



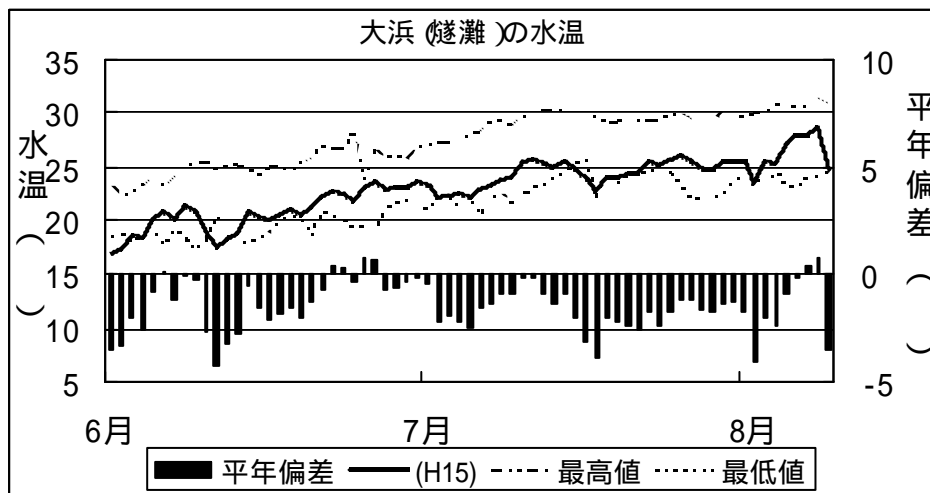
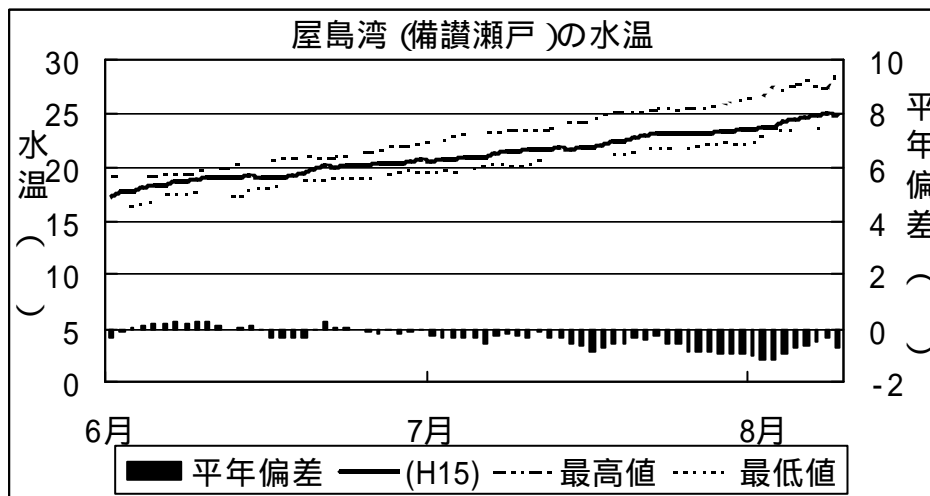
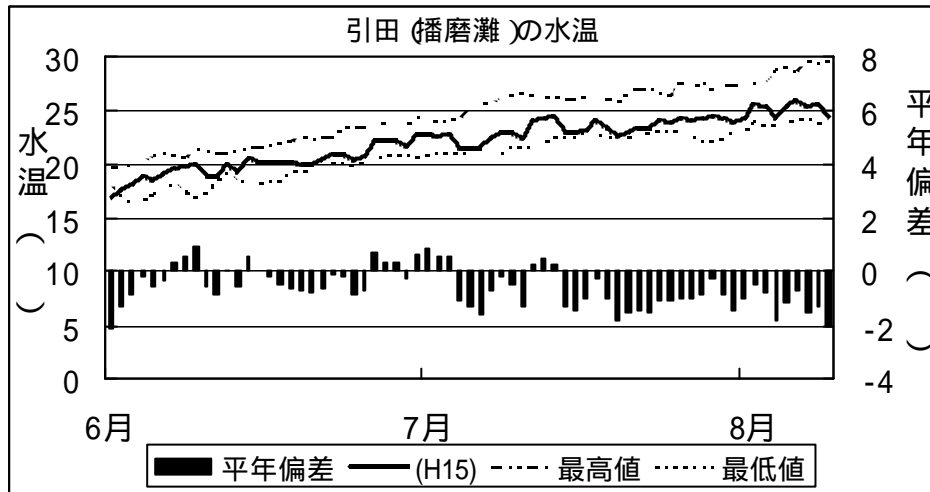
2) 定量観測 (水温)

播磨灘 (引田): 6月中旬以降、平年偏差が -1 ~ 1 で推移していたが、7月に入りやや低下し、中旬以降、平年偏差が -1 で推移している。

備讃瀬戸 (屋島): 6月は平年偏差が -0.5 ~ 0.3 と平年並みに推移していたが、7月に入り徐々に低下し、8月は -1 前後で推移している。

燧灘 (大浜): 6月上旬、6月下旬、8月上旬に一時平年値を上回ったが、その他の日は、平年偏差が -2 前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元 (1989) ~ 平成 14 (2002) 年
屋島: 昭和 50 (1975) ~ 平成 14 (2002) 年



3) 赤潮

播磨灘：7月下旬小豆島北部で *Chaetoceros* sp.主体の赤潮、8月上旬南西部で *Noctiluca scintillans* による赤潮の発生があった。

備讃瀬戸：7月下旬屋島湾で *Heterosigma akashiwo* による赤潮の発生があった。

燧灘：8月上旬東部で *Noctiluca scintillans* の赤潮の発生があった。

4) 卵稚仔

調査日：平成15年8月5日（播磨灘）、1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	24.63	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	8.38	2.88
備讃瀬戸平均	0.13	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	5.67	2.27
燧灘平均	10.14	2.86	0.00	0.00	0.00	0.00	9.86	9.14
総平均	9.00	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00	7.37	4.03

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	150.4%	2.7%	-	-
備讃瀬戸平均	11.6%	7.3%	-	0.0%
燧灘平均	55.7%	45.9%	-	-
総平均	97.9%	17.5%	-	0.0%

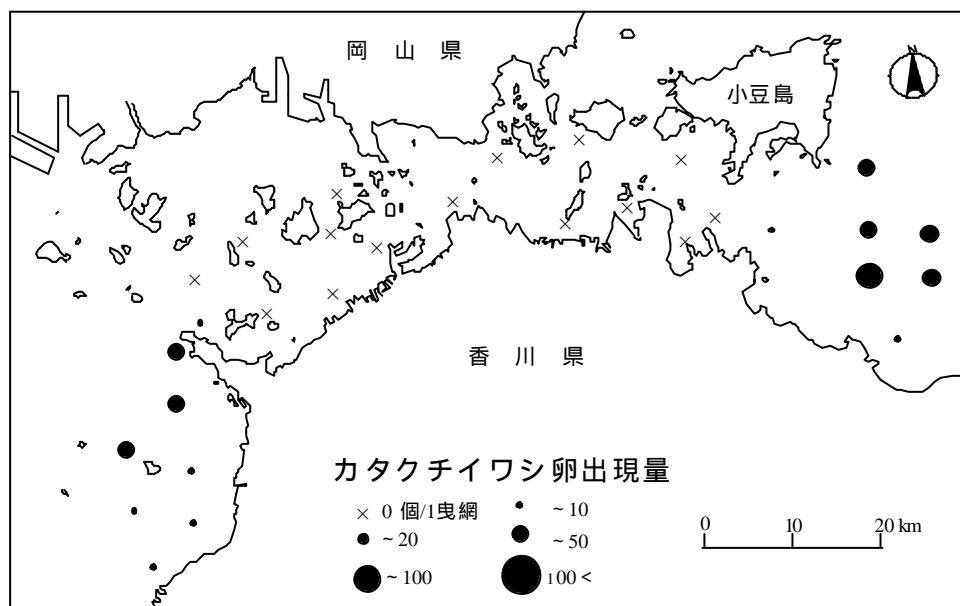
- 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成14（2002）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成14（2002）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にマアナゴ、テナガダコ、イボダイ、小エビ類をが漁獲されているが、低調である。</p> <p>舂網では主にマサバ、マアジの当歳魚が漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>シラス船曳網は7月になって急激に漁獲が減ってきて、7月の漁獲量は前年の約半分であった。8月に入ってほぼ休漁状態になっている。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、テナガダコ、マダコ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>マナガツオ流し刺網は前年同様低調な漁獲である。</p>
燧 灘	<p>底びき網で主にメイタガレイ、マアナゴ、マダコ、テナガダコ、コチ類、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>イワシ機船船曳網の7月までの漁獲量は前年とほぼ同じであるが、生産金額は油イワシということもあって前年を下回っている。</p>